

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 1 相手にわかりやすく自分の考えや思いを表現し伝え合うことのできる授業づくり
- 2 ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境の整備・学習指導の工夫

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員 校長：濱田忠彦 教頭：竹治直樹 教頭：喜多佳英 教務：古川圭三  
 1学年主任：井上智子 2学年主任：松田真理 3学年主任：村上実紀子  
 吉岡 万里 5学年主任：森岡沙緒里 6学年主任：山田孝  
 4学年主任・研修主任：横手里佳 特別支援コーディネーター：福長裕江

校長

濱田 忠彦 印

【各校の取組状況の把握について】

・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施 ・学年団による話し合い後、文書報告

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●身に付けた力を活用する力が弱い ●集中の継続が難しく、「聞く」ことが十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・習得した知識・技能を学習や生活の中で活用できる。	・朝の活動を活用し、基礎的・基本的な内容(漢字・視写・音読・計算)習得を図る。 ・具体物やICT機器を効果的に活用し分かりやすい授業を工夫する。 ・日記指導や朝のスピーチを効果的に用い、表現力を養う。	・日記や朝のスピーチの内容を工夫してレベルをあげていきたい。 ・朝の活動時間に視写・音読・四則計算に力をいれたい。 ・フラッシュカードを活用し漢字の習得を図る。	・日記指導、スピーチ、ミニテストなどの継続的な取組で、基礎的な知識・技能がレベルアップしてきた。 ・デジタル教科書(フラッシュカード)の活用が、漢字や計算などの習得に有効であった。	・基礎基本の知識や技能は身に付いてきたが、生活の中で生かすことや、書く力がまだまだである。 ・デジタル教科書やタブレットの積極的な活用を進める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ホワイトボードなどを利用して自分の考えをまとめられるようになってきた ●自分の考えや思いを筋道を立てて、相手に分かりやすく話したり書いたりすることが難しい。	・自分の考えを整理して、順序だてて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表すことができる。	・発問を精選し、思考の時間を十分に確保する。 ・ペア学習やグループ学習の機会を増やし、少人数での意見交換をする中で自信をもたせる。 ・ホワイトボードや思考ツールを効果的に活用し、発表する抵抗感を軽減させる。	・思考ツールを積極的に活用する。 ・日記指導、朝のスピーチ、子ども新聞の活用で技能の習得とともに表現力をつける。 ・考える力をつけるためワークシートの工夫、時間の確保を行う。 ・めあてをはっきりさせた話し合い活動を行う。	・思考ツールやホワイトボード、デジタル教科書の活用により、自分の考えを表現する力がついてきた。 ・ペア学習、グループ学習を取り入れることにより、自信を持って表現活動ができるようになってきた。また、理由などを考え分かりやすく表現できるようになってきた。	・より効果的な話し合いの方法や思考ツール、ワークシートのより効果的な使い方を工夫する。 ・個々に支援が必要な児童への手立てを考える。 ・タブレットの活用を研究する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ●困難な学習内容に対する根気強さに乏しく、学習態度が受動的である。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。	・直接体験やICT等を活用し楽しい授業を行い、児童が活躍できる場を授業の中で多く作る。 ・授業の振り返りを自分の言葉でノート等に記していく。 ・児童の実態把握を行い、個別の支援を工夫する。	・自主学習の取組をクラス全体に広げる。内容を工夫する。 ・課題への取組を諦めがちな児童がいるが、問題解決できる体験を今後も積み重ねていきたい。 ・授業の振り返りを活かしていく。	・自主学習では、互いのノートを参考にしたり、評価を行ったりすることで、質・量ともにレベルアップしてきた。また、授業の振り返りを生かし学習できるようになってきた。 ・授業の振り返りを大切にすることで、次時への意欲につながった。	・学習につまづきのある児童への支援が必要である。 ・タブレットを活用した授業や家庭学習の進め方を研修する。 ・振り返りの時間が確保できるように授業の組み立てを考える。

令和2年度 学力向上ロードマップ

